

錦城を支える新たな5人の柱



速報版

錦城高等学校新聞委員会 編集室 2021

みんなでつくる 錦城高校新聞

今年度は10人が立候補

11月10日(水)の6時間目に、生徒会選挙が行われた。今年度も新型コロナウイルス感染症防止の観点から立候補者の演説は放送で実施され、実際の選挙で使用されている投票箱を用いて教室で投票を実施した。(編集部共同取材)

立候補役職	氏名・クラス	得票数	信任/当選	立候補役職	氏名・クラス	得票数	信任/当選
生徒会長	藤田 和望さん(2L)	1354票	信任	監査委員長	長岡 胡桃さん(2F)	1351票	信任
生徒会副会長	高梨 恭一さん(1E)	455票	当選	監査副委員長	三浦 一真さん(2E)	874票	当選
生徒会副会長	新田 諒さん(1H)	342票		監査副委員長	加園 羚也さん(1K)	475票	
生徒会副会長	大曾根 歩人さん(2M)	262票		錦城祭実行委員長	中山 温仁さん(1A)	1345票	信任
生徒会副会長	多田 雄貴さん(1D)	192票					
生徒会副会長	山下 実久さん(1B)	116票					

有効票数：1385票 無効票数：12票

生徒会選挙が行われ、これからの錦城を引っ張っていく5人がついに決定！各候補者の演説、応援演説をご紹介します！

積極的に活動する候補者

今年度の生徒会選挙は、昨年度と同様に小平市選挙管理委員会から実際の選挙で使用されている投票箱を拝借し、各教室で放送を聞いたのち投票を行った。今年度は生徒会長、監査委員長、錦城祭実行委員長は信任投票、生徒会副会長と監査副委員長は決選投票によって選出された。

また今年度は、朝に昇降口で「挨拶運動」を行ったり、自身の公約や学校への思いを語り合う「討論会」を行ったりするなど、候補者たちが積極的に活動している様子が多く見られた。

はじめに、選挙管理委員長の児玉ゆかりさん(2C)からの話のあと演説が始まった。生徒たちは放送に真剣に耳を傾けていた。以下、演説実施順に候補者演説、応援演説を紹介する。

生徒会長候補 藤田和望さん(2L)

「歴代の生徒会役員達の志を受け継いでいきたい」と立候補の理由を語る藤田さん。前期で生徒会副会長を務めた中で公約を全て達成することはできなかったが、生徒の代表として先生方と積極的に議論し意見を交わしていきたい、生徒会会則の改正は完遂、校内規則の見直しも少なからず前進したと話す。当選したら前期



演説前に練習を行う候補者と応援演説者

実施。2つ目は、部活動を行っている生徒たちが時間を無駄にせず、効率よく学習するために自習室の解放時間を延長すること。最後に「私の掲げた公約は他の立候補者の公約とは違い、華やかなものではないですが、実現性には自信があります」と生徒のために全力を尽くしていくことを約束した。

生徒会副会長候補 多田雄貴さん(1D)

生徒会副会長に立候補した多田さんは1つ目の公約として、先生が学校内で生徒がスマホを使用していたことに対して指導した回数グラフを挙げた。どのくらい生徒がルールを破っているのかを目に見えるようにすることで、

錦城生がルールを守り、将来的に使えるようになることを考えている。2つ目の公約は「Classiでも意見箱を配信するというものだ。今の意見箱は場所がわからなかったり、出すのが面倒だったりするので、錦城生がかなりの頻度で見るClassiで配信することで、より多くの意見が得られると思います」と語る。最後に「意見を聞くだけでなく、実現していきたい」と意気込んだ。

生徒会副会長候補 高梨恭一さん(1E)

最終、明朗快活な口調で演説を行った生徒会副会長候補の高梨さんは、主な公約を2つ掲げた。1つ目は、1階に設置されている自動販売機のラインナップを生徒たち自身が決めることができるようにする。

応援演説の赤尾翔太さん(1F)は「多田さんはボディビルの経験から堂々としていて、人前に立つことに慣れていて、自分の意見を伝えられる人です」と話した。

生徒会副会長候補 大曾根歩人さん(2M)

演説で自身の公約について詳しい説明を語った大曾根さんは、1つ目の校則改正について、エレベーターやコピー機の使用ルールなど些細な点を確実に改正していきたいと話した。特に、小さいけれど、不快な思いをしたり、あると便利だったたりするルールを改正していきたいです」と決意を語った。2つ目の始業式のリモート化では、学校にいる時間よりも登下校にかかる時間を減らすようにしたいという思いから公約に掲げたとい



教室で静かに放送演説を聞いている様子

う。全体を通して、錦城のために力を尽くしたいと話した。大曾根さんの応援演説を担当した早川曜さん(2D)。大曾根さんは卓球部の活動に熱心で積極性があり副部長に抜擢されたという。また「楽をするための努力を惜しまない人なので、錦城生が快適に過ごせるように全力を尽くして欲しい」と話した。

生徒会副会長候補 新田諒さん(1H)

生徒会副会長候補の新田さんは、4つの公約を掲げ、達成すれば校則が緩くなったものと同然だと定義したうえで、パーカー、カーディガンの着用は体温調節をしやすい、靴の自己化は利便性という形に変えていくことができれば「自己判断力」につなげることができると話す。この自己判断能力というのはこれからの社会で重要なと述べた。錦城を過ごしやすい学校にするのはもちろん、そのために自己判断能力を上げ、錦城生全体のメリハリにつなげていきます」と締めくくった。

応援演説者の田中政成さん(2J)は新田さんと同じ部活の部長だという。新田さんは、大きな目標を掲げるのではなく、就任した後どれだけ実現できるかが大切だと部内で話していたという。また、生徒から挙げられた意見に早急に取り掛かることができる人と、同じ部活だからこその見聞ができる客観的な面を全校生徒にアピールした。

生徒会副会長候補 山下実久さん(1B)

最初に「このコロナ禍に挨拶や討論の場を設けて頂き、ありがとうございます」と感謝の言葉を口にしながら山下さん。選挙期間中校門での挨拶で多くの人が会釈や挨拶を返してくれたことなどで、心が動かされる場面が多かったという。当選した際には1人ひとりの意見を尊重するために、各階への意見箱を設置を進めたいと話した。また、女子の靴下を短くすることもしたという。現在の女子の靴下は長く厚いため、体育の後などは暑く「地獄」となってしまうからです」と山下さん。



教室での投票の様子

応援演説者の田村沙代子さん(1B)は「山下さんは、中」と抱負を述べた。また、「次期監査委員長になる」という目標を掲げ、監査副委員長を務める上で「監査委員長のサポート」「ノウハウを学ぶこと」が大切だと話し「真面目に仕事と向き合っていきたいです」と意気込んだ。

監査副委員長候補 加園羚也さん(1K)

監査副委員長候補の加園さん(2J)は「三浦さんは人がやっていたがらない仕事を率先してやってくれて、周りから信頼されています。また、周りをよく見ていますので、意見に耳を傾けてくれます」と話す。

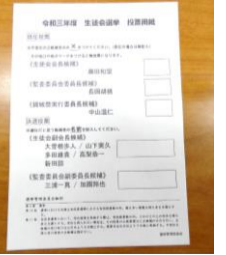
錦城祭実行委員長候補 中山温仁さん(1A)

演説の最初に「突然ですが、錦城祭のルールが多いと思います。錦城生と錦城祭実行委員の間にある、ルールの解釈の違いを埋めていきたいです。具体的には、錦城祭専用の意見箱を設置して意見を集め、それらを委員会で話し合い、広報などで錦城生へフィードバックしていきたい」と述べた。錦城祭実行委員会だけが錦城祭を作ることができないので、錦城祭の枠組みを錦城生とつくりたいです」と抱負を語った。

前年は監査副委員長を務め、その経験を生かして今回監査委員長に立候補した長岡さん。主な公約に「学期末に生徒にアンケートを実施し、監査委員より結果を発表すること」を掲げた。寄せられた意見について今まで以上に活発に議論し、先生の考えも取り入れつつ意見を深めることで、毎日快適な学校にしたいと力強く語る。

監査委員長候補 長岡胡桃さん(2F)

応援演説を行った前監査委員長の大久保摩美さん(3C)は長岡さんについて「一緒に監査の仕事をしていました。長岡さんはやるべき仕事をしっかりとこなし、とても責任感があります」と評価。長岡さんは「責任を持って活動したいです」と決意を固める。その発言からは「錦城をより



今年度の投票用紙

監査副委員長候補 三浦一真さん(2E)

監査副委員長候補の三浦さんは公約として、即席麺の自販機設置を挙げた。食堂の利用者増加に伴い、購買や食堂で昼食を買えない生徒が購入できる物がパンしかないことから、選択肢を増やしたいと思ったという。また、2つ目の公約として、生徒会活動とそをしっかりとこなし、とても責任感があります」と評価。長岡さんは「責任を持って活動したいです」と決意を固める。その発言からは「錦城をより

これから錦城生のために働きかけてくれる新生徒会メンバーが決定した。今回の生徒会選挙は、例年よりも立候補者が多く、信任投票だけでなく、決選投票によって今錦城生が望んでいることが、選ばれた生徒会メンバーの公約から分かったものとなった。今後とも錦城高校新聞は新生徒会の動向を追っていく。